

WEEKLY SIGNAL

2020年7月10日(金) 1532号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	7/13(月)	7/14(火)	7/15(水)	7/16(木)	7/17(金)
無担保O/N			△ 0.087% ~ 0.001%		
銀行券	+ 500	ト ン	ト ン	△ 1,000	△ 1,000
財政他	△ 19,000	△ 23,000	△ 12,000	+ 3,000	△ 3,000
資金需給	△ 18,500	△ 23,000	△ 12,000	+ 2,000	△ 4,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)	源泉税揚げ	国債発行償還(個人)		
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,900 新型コロナ対応金融 △ 5,600 補充供給 + 100 CP等買入 △ 300				米ドル資金供給用担保 + 23,200 被災地支援 △ 1,100
オペスタート	国債買入 + 8,800 共通担保(全店) + 1,900 新型コロナ対応金融 + 23,300				
(日本)		金融政策決定会合(15日まで) 営業毎旬報告(7月10日現在)	展望レポート公表 黒田総裁、記者会見		
(海外)	米財政収支(6月) 英中銀総裁、NY連銀総裁 オンラインセミナーで講演	米セントルイス連銀総裁、オンライン討論会 に参加 米CPI(6月) ユーロ圏鉱工業生産(5月)	米ページブック 米輸入物価指数(6月) 米鉱工業生産(6月)	米新規失業保険申請件数(7月11日終了週) 米小売売上高(6月) 米NAHB住宅市場指数(7月) ECB政策金利発表、ワガット総裁記者会見	臨時EU首脳会議(18日まで) 米住宅着工件数(6月) ユーロ圏CPI(6月)

<インターバンク市場>

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.030 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.020 ~ 0.040
SPOT 3M	0.000 ~ 0.070
SPOT 6M	0.000 ~ 0.130

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初442兆9,600億円から始まり、9日には国債・国庫短期証券買入を主因に447兆円台まで増加した。その後は国庫短期証券発行等の財政等要因から同残高は若干減少し、446兆3,500億円を越えた。
無担保コールON物加重平均金利は大手行中心に調達意欲が旺盛で、週を通して底堅い展開となった。週初△0.034%から始まり、その後は△0.020%台で推移し、週末には幅広い業態から調達希望が見られた事で△0.017%に上昇し越えた。
ターム物は主に1~2Wの期間で△0.040%~△0.030%の出合が見られた。
9日、日本銀行は当座預金のマクロ加算残高にかかる基準比率の見直しを行い、7月積み期の基準比率を前積み期対比+3.0%の31.5%とした。
来週の主な予定として国内では、日銀金融政策決定会合(14-15日)、黒田総裁記者会見(15日) 経済・物価情勢の展望レポート公表(15日)、海外では米ページブック(15日)、ECB政策金利発表(16日)、臨時EU首脳会議(17-18日)等が挙げられる。

<オープン市場>

CP3M(a-1+)	△0.01 ~ 0.01
TDB 3M	△0.120 ~ △0.075
現先(on/1w)	△0.04 ~ 0.00

<C P>

今週の入れ発行総額は約 6,300億円、週間償還額(約4,600億円)を上回った。先週同様、卸売業や食品・鉄鋼業等の大型案件がオフアされ、活況となった。先週末の市場残高は24兆4,236億円であったが、9日時点では5,936億円増加し24兆9,172億円と、25兆円に迫る発行残高となっている。発行レートは、浅いマイナスから0%近辺での出合いが中心であった。
来週の週間償還額は、約3,700億円となっている。5・10日発行が予定されるため、取引は活況が見込まれる。発行レートは、0%前後の横ばい圏内の出合いを予想するが、発行量の少ない銘柄ではやや強いマイナスレートでの発行が見込まれる。17日に、CP等買入れオペが6,000億円オフアされる予定。

<TDB>

9日の6M920回債(1/12償還)の入れは、最高落札利回り△0.1725%(前回債△0.1733%)、平均落札利回り△0.1764%(同△0.1753%)となり、入れ後△0.178%~△0.181%で取引が見られた。10日の3M921回債(10/12償還)の入れは、最高落札利回り△0.0862%(同△0.0882%)、平均落札利回り△0.0922%(同△0.0962%)となり、入れ後△0.080%~△0.090%のレンジで出合が見られた。そのほかセカンダリーでは3M917回債(9/23償還)は△0.080%、同918回債(9/28償還)は△0.080%~△0.085%、同919回債(10/5償還)は△0.110%~△0.112%、1Y916回債(6/21償還)が△0.181%のレンジで取引された。また、8月償還物が△0.085%で出合が見られた。

<レポ>

足許GC取引は、週初△0.075%~△0.065%の出合いが中心。短国買入オペがオフアされた8日受渡しでは、△0.09%~△0.08%へレートは低下した。その後、短国3Mの発行日となる13日受渡しではレートが上昇し、△0.07%~△0.06%で取引された。SC取引では、40年13回債のレートが一時的に低下する場面が見られたほか、2年401~414回債、5年137~143回債、10年336~359回債、20年164~172回債、30年59~66回債、40年9~12回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。